

インドネシアにおける地域間所得格差について¹⁾

貫 名 貴 洋*

1. はじめに

インドネシアにおける「所得格差」の研究は、日本においても多くの研究者により様々な分析が行われている。しかしそれらの研究の多くは「階層間」格差による研究が中心であり、例えば富裕層と貧困層における格差の研究や、貧困ライン付近の所得状況や貧困ラインの時系列推移といった内容である。しかし、インドネシアは、人口においては世界第4位(229,965,000人)、面積においては世界第15位(1,919,440 km²)という世界有数の大国である上に、1万3,000以上からなる島嶼国でもあり、代表的な島だけでもスマトラ、ジャワ、カリマンタン、スラウェシ、パプアなどがあり、それらの地域ごとに経済環境や所得状況も相当な異なりを持っている。また、原油産出可能地域では、それらを採掘するための人材の確保が必要であるほか、原油を原材料とする製造業も多く存在しており、それらの地域における所得は、原油非産出地域よりも高い数値を示している。さらに、第2次産業や第3次産業を中心とする「都市」地域および、第1次産業を中心とする「農村」地域でも、それぞれの格差が生じている事は言うまでもない事実である。

以上の事をふまえ、本報告では、「階層間」所得格差の研究はもとより、「地域間」所得格差の研究を行う事で、インドネシアの経済構造をよ

り深く解明し、所得格差の要因や時系列分析を行っていく。

2. インドネシアの州内総生産(Gross Regional Domestic Product)²⁾の現状

現在インドネシアには33の州が存在し、州ごとに州内総生産(Gross Regional Domestic Product, インドネシア語で Produk Domestik Regional Bruto)がまとめられ、集計されたデータは中央統計局(Badan Pusat Statistik)によって公表される。またその公表されるデータは、生産統計(Lapangan Usaha)と支出統計(Penggunaan)とがある。生産統計は州ごとの集計を基に、スマトラ、ジャワ、ジャワ+バリ、カリマンタン、スラウェシ、それ以外の地域と、島ごとに集計も求められていたり、原油産出にかかるデータを含めたものと除外した2種類のデータを集計したりと、地域ごとの差異を容易に知ることができる。

2008年の速報値³⁾によれば、インドネシア全体で(4,954,029 10億ルピア)のGRDPを産出しているが、うち約50%(2,426,908 10億ルピア)はジャワ島にある6州での合計によるものであり、中でもジャカルタ首都特別州の(677,411 10億ルピア)は特筆すべき大きさとなっている。また、原油産出に関連する金額を抜いた値と比較してみると、インドネシア全体で(4,426,385 10億ルピア)のGDRPに対し、ジャワ島6州で50%超の(2,340,043 10億ルピア)のシェアを占

* 広島経済大学経済学部講師

め、他地域の産出額を圧倒している。

1人あたりのGDRP⁴⁾で見ると、インドネシア全体での平均が(21,678千ルピア)であるが、この平均を超える州はわずか5州しか存在しない。さらに原油産出地域が33州の上位を占めている。1位の東カリマンタン州(101,858千ルピア)、3位リアウ州(53,264千ルピア)などである。原油産出に関連する額を抜いた値で見ても、インドネシア全体の平均(19,370千ルピア)に対し、平均を超える州は同様に5州のみである。33州中最も高いジャカルタ首都特別州(73,713千ルピア)と最も低い北マルク州(4,019千ルピア)との間に18倍以上の開きがある。2001年のデータでは、当時最も高いジャカルタ首都特別州と最も低いゴロンタロ州の間に14.5倍の開きがあり、地域間所得格差が拡大傾向にあるといえる。しかしながらこの比較は最大値と最小値での比較しか行っていないため、格差の傾向が拡大しているのか否かについては今後の詳細な分析により明らかにしていく。

また、原油産出額を抜いた1人あたりGRDPで33州中5位となるパプア州(26,615ルピア)の数値は、日本人にとって驚くべき数字ではないだろうか。ニューギニア島の西半分を占めるこの地域は、未開地域とも言われている。2003年2月にパプア州から西部地域、西イリアンジャヤ州(現、西パプア州)が分離し、原油産出に関連する産業を失った。しかしながら、銅や金といった地下資源を供給するフリーポートが建設されており、こうした産業がパプア州の経済成長に貢献していると言ってよい。

3. Rumah Susun の現状

インドネシア語で rumah とは家を意味し、susun とは積み上げるという意味をもつ。Rumah susun となると複数階を持つ家という意味になり、アパートやマンションといった集合住宅のことを指すようになる。首都ジャカルタ

では高層集合アパートやマンションが立っており、富裕層がこうした住宅に居住している。しかしながら Rumah susun とは、富裕層が住むようなアパートやマンションは含まれず、一般的には政府や州・市が貧困層のために建設されるアパートのことを指す。ジャカルタや西ジャワのバンドゥンといった都市では、これまでも数多くの rumah susun が建設されている。ここでは、南スラウェシ州都であるマカッサル市に、2008年に建設された rumah susun での聞き込み調査を基に報告する。



2008年に建設された rumah susun はマカッサル市の Tanjung Bunga 地区にある。Tanjung Bunga 地区は観光地や商業地として開発されており、2009年9月にインドネシア最大の屋内遊園地「Trans Studio」が開園するなど、急ピッチに開発が進められている。その Tanjung Bunga 周辺の kampung⁵⁾ 整理、また貧困層の居住地を整えるために、マカッサル市政府が2つのアパートを建設した。

4階建ての3棟で1つのアパートとなっているこの rumah susun は、2階から4階までが居住区域で1つのフロアに12の居住区がある。これらの居住区には借家契約で住むことができ、2階は125,000ルピア、3階は100,000ルピア、4階は75,000ルピアを1ヶ月単位で支払っている。1つの居住区には、6畳ほどの部屋が2



つ、3畳ほどの細長い台所、トイレ兼浴場が用意されているだけの非常に狭い空間である。このアパートの裏手にも kampung は存在し、多くの平屋住宅が建ち並んでいる。アパートと kampung のちょうど境目あたりに kampung のゴミ収集場があり、そこから燃やされる煙が立ちこめるなど、お世辞にも良いと言える景観ではない。また、アパートの周囲をめぐっている側溝も汚れが目立ち、周囲に悪臭が立ちこめているような状況である。

2010年2月19日、20日に行ったB-2棟3Fに住む Ibu Anti (40) への聞き取り調査によれば、タクシードライバーをする旦那さんの1ヶ月の収入が約400,000ルピアで、さらに旦那さんの収入を補うために奥さんが自宅で日用品を販売するよろずやを営業し、さらに200,000ルピアほどの収入を得ている。自宅で女性がよろずやのような店を営業することはインドネシアでは珍しくないが⁶⁾、調査に訪れた rumah susun の中だけでも、相当数の居住区で店舗が構えられていた。また、自宅でマカッサル伝統の籐製品を編み込むといった内職のような仕事をしている家もあるらしく、公共スペースの階段にその籐製品が保管されていたり、学校から帰ってきた子どもたちもアパートの内部で走り回って遊

んだり、アパートというよりは集落である kampung がそのまま積み重なっているだけの雰囲気になっている。Ibu Anti 以外にもこの rumah susun に住む人たちは一様に、「私たちは貧困層で日々のお金に苦しんでいる。しかし心まで貧困になりたくはないから毎日笑顔で生活をしている。」と話していた。

4. まとめ～今後の研究にむけて～

この1年間で大変有意義な調査・研究をすることができた。しかしながら、2章の州内総生産データの詳細な結果がまだ得られていないこと、3章で述べた rumah susun はマカッサルでの調査のみしか行っていないなど、今後の研究でさらに深めていく必要がある。特に rumah susun についてはマカッサル以外の地域での調査もすすめていく必要があると同時に、支出面の調査や、アパート全体の実態調査をすすめていくことも必要不可欠となる。幸いにもこの1年間で多くの人脈形成や研究への糸口の発見ができたので、今後も現地へ幾度となく訪問しつつ、以上の研究をすすめていきたいと考えている。この海外研修期間を与えてくださった本学教職員ならびに、この1年の海外研修中にお世話になった現地の方々に感謝し本報告を終えたい。

注

- 1) 本研究集会報告は、本学の外国研修制度において、2009年度にインドネシア共和国ジョグジャカルタ州・ガジャマダ大学経済学部へ留学した際に行った調査・研究を基としている。
- 2) 本章で用いているデータは、Badan Pusat Statistik “Produk Domestik Regional Bruto Provinsi-provinsi di Indonesia Menurut Lapangan Usaha 2004-2008” (インドネシア州内総生産・生産統計) から抽出したものである。
- 3) 本章で用いているデータは、すべて名目価格での表示とする。
- 4) 1人あたり州内総生産データは、“Produk Domestik Regional Bruto Provinsi-provinsi di Indonesia Menurut Lapangan Usaha 2004-2008”の

表5から表8に掲載されている。しかし、これらの表に表記されている単位は10億ルピアとなっているが、千ルピア単位の誤りであると推測される。よって、本報告では1人あたり州内総生産データの単位を千ルピアで統一する。

5) *kampung* とは、集落や群（むら）という意味の

インドネシア語。

6) このような形態での営業は、日用品を扱うよろずや以外にも、携帯電話のプリペイド料金（*pulsa*）を扱ったり、飲食品を調理して販売するようなこともよくみられる。